



クリスマスツリー輝く

年末のヒルタウン風物詩、中庭のクリスマスツリーが11月30日から12月25日まで輝き、住民の皆さんの目を楽しませました=写真=。

電飾が施されたのは、3代目となるブンゲンストウヒという木。6年前に植えられた2代目の「もみの木」が枯れたため、7月に高さ1・2mのこの木に植え替えられました。

ブンゲンストウヒは、北アメリカ西北部に自生する常緑針葉樹。同国コロラド州の木に指定されています。日本では、もみの木やドイツトウヒと同じようにクリスマスツリーとして使われることが多く、耐寒性が高いため道内では街路樹としても植えられているそうです。

どこまで大きくなるのか、楽しみです。

新型コロナ 終わってない

道内の感染者数 10週連続全国最多

5年目となる新型コロナ感染症。昨年春にインフルエンザと同じ「5類」扱いになってからマスクを着用しない人が増え、テレビ、新聞などで報じられる機会も少なくなっています。

しかし、新型コロナはまだまだ確実に感染が続いています。とりわけ、私たちが住

む北海道は、全国から見ても「多発地域」。10月上旬から12月中旬まで10週連続で全国最多の感染者数を記録しています。

さらに、年末年始にかけ新型コロナに加え、インフルエンザ、子供に多いといわれるマイコプラズマ肺炎の3つの感染症が同時流行する「トリプルデミック」が懸念されています。くれぐれも体調管理には万全を期してください。

「5類」移行後、新型コロナは毎週木曜日に北海道庁が道内の状況、翌金曜日に厚生労働省が都道府県別の状況をそれぞれ発表しています。いずれも、指定医療機関（道内224、全国約5000）からの報告に基づくものであり、感染者すべてを網羅した数ではないことに留意する必要があります。

道内の場合、指定医療機関から報告される感染者総数は11月11日-17日の週から1000人を超すようになり、12月9日-15日の週には2660人にまで増加。道内の2倍近い指定医療機関がある東京都では、924人と道内の3分の1

(1) ほど。北海道の突出ぶりが際立っています。

1月19日に新年懇親会 コロナ禍で5年ぶり

ヒルタウン平岸町内会の新年懇親会が、1月19日（日）午後5時から近くの焼き肉レストラン「ウエスタン」で開かれます。

2020年1月12日に開催して以来、新型コロナ禍のため中断していました。ようやく流行状況が落ち着いて来たため、5年ぶりに開催することになりました。

参加料金は年明けに配布される募集要項をご覧ください。町内会に加入していない皆さんの参加もお待ちしています。

要警戒「トリプルデミック」

コロナ×インフル×マイコプラズマ



①

札幌直下型 震度7

大地震想定し総合防災訓練

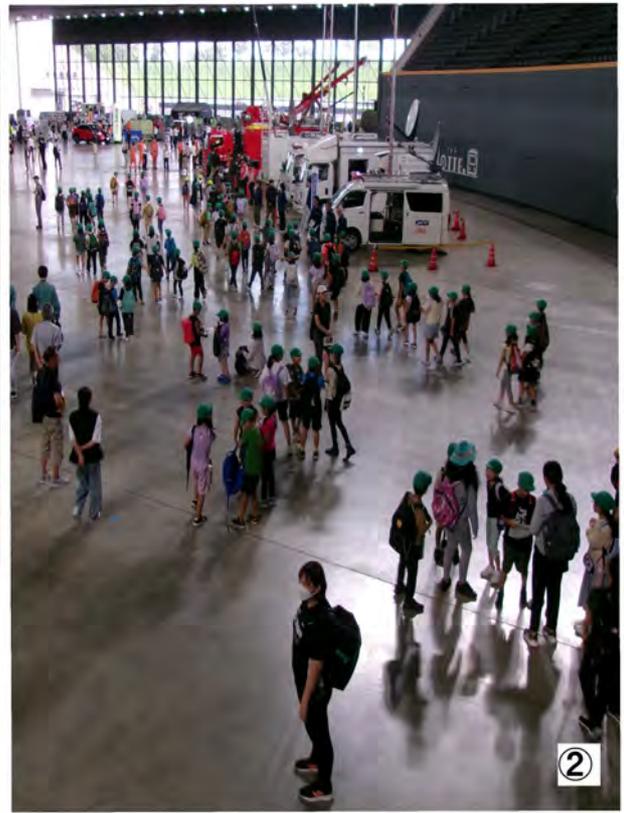
震度7の札幌直下型地震を想定した大掛かりな総合防災訓練が9月11日、大和ハウスプレミストーム（札幌ドーム）で行われました。

札幌市の主催で、消防、警察、日赤、通信会社など関係機関57団体、地域住民ら約1200人が参加しました。ヒルタウン平岸町内会からは樋口正幸会長、向出五郎副会長ら3人が出席しました。

最初に、石狩中部で震度7の地震が発生したとの想定で「シェイクアウト訓練」。参加者全員がその場で頭を手やバッグなどで防御し、背を丸めて安全を確保する姿勢を取りました。このあと、手やハンカチで口をふさぎながら避難する「煙道通過訓練」が行われました。

樋口会長らは「避難所開設・受付訓練」にも臨み、外国人を含め避難して来る人たちの氏名、住所などを聞き取る作業に当たりました。

この総合防災訓練は毎年行われており、同ドームでの開催は20年ぶりです。



②



③



④



⑤

①地震時にその場で頭を防御し自らの命を守る「シェイクアウト訓練」。アメリカで始まったもので、揺れが収まってから避難を始める②消防・警察・通信会社の緊急時の特殊車両（上部）と訓練に参加した小学生ら③「避難所開設・運用訓練」で受け付けを担当する樋口会長（左手前1人目）と向出副会長（同2人目）④登別市にあるNPO法人から参加した災害救助犬。適性があれば犬の種類は問わない⑤日本にまだ1台しかないという大型ドローン。高さ1メートル、羽の直径2・2メートル。飲料水のペットボトル100本を一度につり下げて運ぶことができる

ヒルタウンでも防災訓練

秋恒例のヒルタウン防災訓練が9月22日に行われました。

ヒルタウン自衛防災隊の樋口正幸隊長が同日午前10時、管理事務所のインターホンで全館に避難を呼びかけ。「防災訓練 防災訓練 入居者は至急避難してください」。

まもなく各棟から入居者の皆さんが“避難”を始め、73人がC棟2玄関前に集まりました＝写真＝。各棟の玄関ごとに人数を確認し、樋口隊長が感謝の言葉を述べました。

このあと、場所を管理棟プレールームに移し、同隊防災・消火班担当で、お助け隊の世話役でもある秋山一彦さんが、大災害時の自衛策について説明しました。

ヒルタウンの各棟建物には、トイレ用の汚水管と、台所・洗面所・浴室用の雑排水管が各階を通っています。それぞれの管は階ごとに塩ビ管で繋がっていますが、塩ビ管は揺れ

汚水管破損の可能性も



に弱いのです。震度7以上の大きな地震が起きると、ふだん補修されることのない汚水管の継ぎ手は、破損する可能性があるということです。

汚水管の継ぎ手が1カ所でも破損すると、その汚水管が通っている、全ての階の居室のトイレが使えなくなります。大地震発生時には、こうした事態が起こりうることを入居者の皆さんは知っておいてください。



①

①りんご、梨、ぶどうなどおいしい味覚が実った果樹園で摘み取る皆さん②サクランボの木の下でジンギスカンを味わいながら談笑＝いずれもカメラ同好会・芥川泰子さん撮影

4年ぶり果物狩り 余市へ

コロナ禍のため2020年9月以来中断していた果物狩りが4年ぶりに実施され、9月8日、19人の皆さんが余市町の果樹園へ出かけました。

訪れたのは、同町のニトリ（旧山本）観光果樹園。参加した男性6人、女性13人の皆さんを歓迎するように快晴のお天気。バスで到着したあと早速、りんごや梨、ぶどうなどがたわわに実った果樹園に入り、一つひとつ慎重にもぎ取って口に入れて味わったり、カゴに摘み取っていきました。

昼食は、近くにサクランボの木がある野外で生ラムのジンギスカン鍋を囲みました。樋口正幸会長の音頭でビールなどで乾杯し、ラム肉などに舌鼓を打ち談笑の輪が広がりました。

このあと、赤井川村に移動。長期の改修工事が終わり、リニューアルオープンしたばかりの赤井川カルデラ温泉（赤井川保養センター）でゆったりと温泉を楽しみました。

同温泉は1983年（昭和58年）の開業。改修工事を機に源泉が新源泉に変わり、みなさん、心地よいひとときを過ごしました。

温泉のあと、毛無峠を通過して帰途に就きました。立ち寄った赤井川道の駅ではみなさん、新鮮な野菜など思い思いのお土産を選んでいました。



②





5年ぶり餅つき大会

子供らも飛び入り“ペッタン”

コロナ禍で中止されていた師走の餅つき大会が5年ぶりに復活、12月8日、管理棟プレールームで6臼分の餅が出来上がりました＝写真②＝。

この日使われたもち米は、道内産と本州産をブレンドした8升（約12キログラム）。南平岸の福屋菓子舗でむしてもらい、平岸小学校から借りた臼と大小3本の杵（きね）で6回に分けてつき上げられました。

子供たち十数人を含む30人ほどの皆さんが参加し、町内会の男性役員らに交じって杵を振り上げる若いお父さんや子供たちも＝写真③＝。ペッタン、ペッタンと力強い音が響き渡り、熱々の餅が次々と出来上がっていききました。生まれて初めて杵を振るったという5歳の女の子は「楽しかった」とニッコリ。

つきあがった餅は、町内会の女性役員の手で丸餅に。あんこ、きな粉、ゴマ、それに雑煮も用意されており、子どもたちは小さく丸めた餅にきな粉など好きな味をまぶし＝写真①＝、ほおぼっていました。



3募金 総額 9万2704円

10月に皆さんにお願いした3募金に対し、総額9万2704円が寄せられました。ご協力に感謝いたします。

内訳は次の通りです。日赤募金33件・2万7500円、赤い羽根募金48件・4万1945円、一円玉募金48件・2万3259円。

編集後記

関連死235人を含む462人の犠牲者が出た元日の能登半島地震で明けた2024年。翌日には羽田空港でJAL機と海保機が衝突し炎上、5人が死亡する事故。世界的には、パリオリンピック、トランプ氏が再び咲いた米大統領選、ウクライナやガザなど戦禍も絶えることがなかった。

年末恒例の今年の漢字は「金」。五輪年であり、政治家の裏金問題、民間人の金を強奪する闇バイト、世界遺産に登録された「佐渡島の金山」などから選ばれたとか。皆さんの1年はどんな漢字で表されますか。どうぞ良いお年をお迎えください。



町内会の扉をノックしませんか

この広報紙は、町内会に入っていないお宅にも配布しています。お宅も会員になりませんか。お問い合わせ、入会を希望される方は総務部長の秋山一彦さん（電話842-9378）へご連絡ください。管理事務所に入会申込書があります。

155世帯（12月20日現在・加入率54.0%）

<前号掲載時との増減 +5>